

青少年もがみ

第14号 平成23年8月1日

—発行—

最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会
最上地区青少年育成推進員連絡協議会



「今こそ、子どもたちに『社会力』を」

最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会会長 矢口 信一

「勇気や感動を与えられるよう、熱く元気よく、精一杯戦うことを誓います」。東日本大震災発生から4ヶ月、復旧・復興の力にと高校球児の熱い夏の大会の選手宣誓は、再生へ立ち向かう全ての日本人に、ものすごいパワーを与えました。

また、時間をさかのぼることになりますが、6月5日開催された「戸沢村民フォーラム」において、茨城県美浦村教育長の門脇厚司先生による「社会力で日本を変える」と題した講演がありました。震災以降、「社会力」のネット検索数が、4億2千500万件に急増したこと。今、社会が直面している問題を解決するために、お互いが協力し智恵を出しあい支え合うこと。一緒に汗を流し相互に助け合う互恵的協働社会の実現に向けて、「社会力」への関心が高まっていること等が、紹介されました。

社会力のある子どもの特徴として、①大人といい関係を作りたい ②大人と仲良くなりたい ③社会作りに積極的に参加したい意欲を持っている。5年後10年後、20年後の社会を良くするのは、今の子どもたちです。地域こそが、今、社会力を高めなければいけない。私達大人は、そのために何をしなければいけないのかを今こそ熟考しなければと思いました。



「いろいろな方々の意見を聞く耳を持つ」

最上地区青少年育成推進員連絡協議会会長 大山 孝一

今年は大きな震災等に始まり、私達の生活に大きな変化を生じさせております。私達の若い時代は、生きていくことに精一杯でした。学校に行っても、勉強よりも家の手伝いが最優先し、部活動も親に隠れてやっていました。

その時から見れば、生活様式は変わったと思いますが、時代が変わろうと家族の関係は変わらないと思います。最近では、年長者の意見を聞く機会が減っています。古いものには「わび」と「さび」があります。永く生きてきた方々の意見や智恵にも、少しは耳を傾けては如何でしょうか。私が若い時分、漆に興味を持ち、工人に指導をお願いしたところ、その方が曰く「技術は、自分で努力して習得してこそ、本物になる」。そこで、私は自分で努力して解決することに努めてまいりました。苦勞はありますが、工夫して成し得た時の感激は、何物にも代え難いものです。また、考え、工夫するのも大変楽しいものです。

平成23年度 青少年育成両連絡協議会の主な事業

平成23年度の最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会総会と最上地区青少年育成推進員連絡協議会理事会が合同で、6月8日午後2時から最上広域教育研究センターで行われ、両連絡協議会の22年度事業報告及び23年度事業計画案が承認されました。将来を担う明るく元気な青少年の育成を目指し、各市町村の活気あふれる諸活動が推進されることと思います。

青少年育成市町村民会議連絡協議会

- 1 市町村民活動への支援事業の実施
- 2 青少年育成活動情報誌「青少年もがみ」第14号・15号の発行
- 3 青少年の健全育成に関する事業の実施
 - 大人が変われば子どもも変わる県民運動：重点期間7・8月、11月
 - 有害図書類立入調査及び収集：地区内の本屋・コンビニ等
 - 青少年の非行・被害防止全国強調月間：7月
 - 違法簡易広告物除却活動：7月・11月
 - 平成23年度「青少年健全育成県民大会」：10月30日、市民プラザ
 - 青少年健全育成全国強調月間：11月
 - 青少年育成懇談会の開催：12月10日、新庄市民プラザ

青少年育成推進員連絡協議会

- 1 推進員研修会の開催：11月26日、戸沢村「ぼんぼ館」
- 2 青少年育成懇談会の開催：管内の高校生と青少年育成関係者
- 3 機関紙「たづな」第36号の発行：3月予定



第3日曜日は「家庭の日」